

令和 7 年度第 1 回小牧市環境審議会 議事録

日 時	令和 7 年 7 月 31 日（木）午後 2 時 00 分～午後 3 時 40 分
場 所	小牧市役所 本庁舎 6 階 601 会議室
出 席 者	【委員】（50 音順） ○石川 英里 中部大学工学部教授 今枝 正 こまき環境市民会議会長 酒井 美代子 小牧市女性の会会長 馬場 容子 公募委員 松本 高幸 公募委員 宮脇 稔 愛知県地球温暖化防止活動推進員 ◎山本 敦 中部大学名誉教授 吉本 三広 市内事業所推薦 ※ ◎会長 ○副会長 【事務局】 落合 健一 市民生活部部長 小川 真治 市民生活部次長 梅村 知成 環境対策課長兼ゼロカーボンシティ推進室長 渡邊 浩 ごみ政策課長兼ゼロカーボンシティ推進室主幹 赤堀 真耶 環境政策係長兼ゼロカーボンシティ推進係長 大平 守 環境保全係長兼空港対策係長 今井 沙奈恵 環境政策係主事兼ゼロカーボンシティ推進係主事
欠 席 者	高木 香織 小牧市小中学校校長会
傍 聴 者	0 名
配布資料	・ 次第 ・ 資料 1：令和 7 年度小牧市環境年次報告書（案） ・ 資料 2：第三次小牧市環境基本計画（改定版）アクションプラン（案） ・ 資料 3：小牧市環境基本条例の改正について ・ 参考資料：新小牧市環境都市宣言

主な内容

1 開会

- ・落合市民生活部長あいさつ

(山本会長)

今日はこまくるを利用して市役所まで来た。普段からこまくるでいろいろなところへ出向いている。委員からよく話が出る兒の森へ行ってみたが、歩道が整備されていてとてもきれいなすばらしい場所だった。山火事が発生していた時期で当然かもしれないが、遊歩道に喫煙場所がたくさんあり、吸ってくださいというように受け取れ、なんとかならないかと思ったところである。いずれにしても、大変すばらしいところで満足して帰ってきた。

今年度より改定版が始まることもあり、しっかり昨年度をまとめておきたいと思う。

2 議題

(1) 令和7年度小牧市環境年次報告書(案)について

- ・事務局より資料1について説明
- ・主な質疑、意見は以下のとおり

(吉本委員)

前年度6年度同じ報告書をベースに、観測地実測値を追記更新。R6年度と同様の骨格構成。全体的な状況としては改善方向にある。

32ページの下段、景観整備のクリーンアップ事業年間参加者数について、前年に比べてほぼ半減、令和4年度から令和5年度にかけて倍増しており、増減が非常に著しいが、その要因は何か。

評価では、気候変動による高温の日の増加と企業の働き方改革の影響とあるが、何か他に理由があるか、もう少し詳しく教えてほしい。

(事務局)

他市町の状況等を確認したかったが、まだ各自治体とも前年の実績が出てないため、比較した内容がどうかというところは、現時点でお伝えできない。そういった中で、先ほど申し上げた通り、本市としての分析では、ワークライフバランスや、気温の関係が大きく関わっているのではないかというところで、これについてはまだ調査をしており、もう少し具体的なことが示すことができるようになれば改めてまたご説明したい。

(吉本委員)

2点目だが、公害の種類別苦情件数についてお尋ねしたい。13ページ苦情受付件数について全体としては減少傾向にある。そのうち種別の「その他」が36件と報告

が増えており、その内容を教えていただきたい。

(事務局)

公害苦情件数のうち「その他」の件数が多い理由について、様々な苦情申し立てがあるが、その他の36件の内多くを占めるのが、樹木の越境。これは典型7公害ではない。例えば隣の敷地から樹木が越境してきて自分の家の方に入ってきているので対応して欲しい、というような内容が大多数である。

(吉本委員)

3点目は35ページのごみの排出量の算出方法について聞きたい。
例えば一人1日あたり家庭系のごみの排出量が、令和6年度実績407.3グラム。一方で15ページ上のグラフだと家庭系ごみの総量が、30,594トンである。計算すると35ページと15ページで数字があわないがこの違いは何か。

(事務局)

35ページの一人あたりの数字は、「資源を除く」とある。ご指摘あった15ページの30,594トンは家庭系ごみすべて、いわゆる資源も含めた総量になっている。このうち資源が7,604トン含まれており、それを除いて計算すると、一人あたりの数字があってくる。

(宮脇委員)

まず1ページのところで、小牧の皆さんがハイキングで行く尾張白山をぜひ載せてほしい。記載されている天川山は個人の山と聞いている。できれば郷土愛につながる尾張白山を記載してほしい。街に近い低山ながら木々のざわめきと鳥たちのさえずりが聞こえる山頂から小牧山が見え、名古屋の都市部が見えることを記載し、読んだ時に映像が頭に浮かぶ文章にしてほしい。来年度分から修正していただけるとありがたい。

38ページの市民一人当たりの都市公園面積について、人口が減っているから一人当たりの面積が増えていると思うが、公園自体も小牧市は犬山に比べて多いと数字がある。お尋ねしたいこととしては、太良まめなしの里は公園に含まれているか、いないかお伺いしたい。

(事務局)

手持ちの資料で太良まめなしの里が含まれているかわからないため、後ほど回答をさせていただきたい。

(山本会長)

尾張白山について検討の余地はあるのか。

(事務局)

検討することは可能ではあるが、市の紹介として市政概要やその他計画に記載の内容など勘案する必要があるため、掲載できるかどうかはわからない。

(宮脇委員)

付け加えてさせていただくと、天川山は個人の持ち物であり、立入禁止で普段行けないため、行くことができない山を記載して小牧市の紹介としていいのかという部分で疑義があり質問させていただいた次第である。

(松本委員)

読んでいて違和感を感じたところをお伝えさせていただく。21 ページのところの、計画の期間についてお伺いしたい。

昨年、見直したところであり、文言が昨年度と同じのため、昨年はよいが、今回はどうかと思った。事務局から説明があったとおり、改定版の前の計画に基づいているためかと思うが、どうでしょうか。

(事務局)

この環境年次報告書については、前の計画についての進捗状況を管理するものとして作っているため、前の計画について記載している。

新しい計画の方はこの後の議題でお話しさせていただくため、今回はあくまでも前の計画に基づく報告書であり、また今回までご承知おきいただきたいと思います。

(馬場委員)

35 ページ表の 4 段目、「ごみ出しルールを守っている市民の割合」の進捗状況が「一」になっている理由と今後の予定をお聞かせ願いたい。

(事務局)

現在の小牧市の最上位計画である「まちづくり推進計画」という計画に基づいた市民意識調査という調査で、多くの様々な部署が色々な調査を受ける中で、大分ごみ出しルールについての意識が、高くなっているだろうということで、令和 4 年度の前にこの調査がなくなってしまったため、それ以降の割合がわからないというのが、実情である。

(山本会長)

わからないのは困る。せっかく目標に掲げているのに、進捗状況が読めない。今後また元に戻すのかどうするか教えてほしい。

(事務局)

最近、リチウム蓄電池の火災事故が過去全国で非常に増えてきていたり、ごみの問題がクローズアップされたりしているため、担当課として、改めてまた市民の方

にそういう意識があるかどうかを聞けるように働きかけていきたいと思っている。

(山本会長)

数値についての表記が非常に気になる。

前々から言っているように単位と数値の間にスペースを入れてほしいとお願いしており、大分改善して見やすくなっているが、いまだに直っていないところがたくさんある。

例えば7 ページ一番上、「0.04ppm」に入っていない。その下の欄の「10 ppm」はあいている。10 ページの下にも、スペースがあるところとないところがある。

(事務局)

会長がおっしゃったのは、10 ページの pH のところか。

(山本会長)

pH については多分好みがあるので、最終的に他と揃えてもらいたい。スペースがあることでより読みやすくなると思うのが私の意見である。

また、数字で 18 ページ上に資源回収事業の表の中で、小数点以下の有効数字が三桁になっている。これは本当に意味のある数字かどうか私はわからないが、せっかく三桁にしているのであれば揃えていただきたいと思う。

例えば令和5年度の合計 532.8 ではなくて 532.800 に揃えるべき。その下の 411.19 も同様。丸めるのか有効数字三桁にするのか、他にもいくつかあるため、統一してほしい。

(石川委員)

8 ページの水質のところ、BOD の値について詳しく出てくるが、BOD の説明が 3 ページにある。実際に話が出るのが 8 ページのところにあるため、BOD を知らない人にとっては分かりにくい部分がある。

8 ページを読んだ時にすぐわかるように、8 ページに説明を持ってきて、3 ページは「※BOD については 8 ページ参照」としてはどうか。

(事務局)

そのように改善します。

(今枝委員)

25 ページの、環境教育学習について「小中学生の環境にやさしい生活の達成率」の数値は平均か。

(事務局)

平均です。

(今枝委員)

こどもたちの教育ということで、小・中学校を指導していると思うが、保育園・幼稚園児について最近はあまり行ってないと思う。常態化というか、協力できるような形にしていけないか。どのような形で行っているか教えていただきたい。

(事務局)

幼児教育・保育課と話した時、実際保育園の現場では、教育の一環とし、そのようなメニューもあり、環境に触れるということはやっているという話は伺っている。

指標にあるエコライフチェックシートについては、設問が難しい内容もあり、小中学生を対象に行っている。可能であれば、今後、保育園の園児や小学校低学年にも環境に関する取組ができると良いと思っている。

(山本会長)

幼稚園は文科省、保育園は厚労省になり直接市役所から保育園の方にも、そういう指導はできるのか。幼稚園は教育委員会があり、そこから伝えられると思うが、保育園の場合はどうなるか。

(事務局)

なかなか指導という話は難しいとは思いますが、環境に触れてもらう機会が必要という意味では、取り組んでいく必要性はある。以前話したときは常々保育園は環境に触れる取組を行っているとのことだった。

(山本会長)

統計に入れるのは、やはり未就学児については難しいかと思われる。

(今枝委員)

紹介例としてヨーロッパ・北欧ではこどもたちが保育園・幼稚園の活動として、残ったご飯とか、食物残渣から微生物が分解してたい肥ができ、その過程で水が大事であることを教えていたり、食べ物を残してはダメだというような活動をしている。

(事務局)

保育園において食べ残しなどのフードロスについての指導は食育の一環として取り組んでいる。

(酒井委員)

35 ページで再資源化率とあるが、自分たちが活動で行っている廃食用油回収で回

収した油から石鹸を作っているが、これについても含まれているか教えていただきたい。

（事務局）

再資源化率は、ごみの総量と資源の総量から出している。再資源化率には、廃食用油も含まれており、他には資源回収ステーションだけで集めているパソコンや携帯電話であったり、第2・第3資源回収ステーションで集めている枝や木の剪定枝類、桃花台に限っては空き缶回収、市内新聞店における新聞回収をしたものであったり、市だけではなく、市民の方々、事業所対応も含めて、わかる範囲のものを入れて算出している。

（酒井委員）

36 ページの中古品の活用促進について、実績が上がっているが、これを利用した実績というものもここに入っているのか。

（事務局）

ごみ政策課で行っている事業についてお話しさせていただくと、児童館において子ども服 19,854 着回収をしており、17,986 着提供している。

（酒井委員）

残った枚数はそのまま残っているということですね。

（事務局）

年度ごとの回収量のため、昨年度以前の残っているものがプラスアルファまだたくさん残っている状況。ゴミにはなっていない。

（事務局）

先ほど質問のあった太良まめなしの里が公園に含まれているかの質問について、都市公園法の適用を受ける緑地となっている。数値には緑地も含めているため、太良まめなしの里も含まれているということになる。

（山本会長）

11 ページ土壌汚染の件で、ふっ素及びその化合物は PFAS が含まれているか。無機なのか。

（事務局）

PFAS は入らない。無機かどうかについては確認させていただきたい。

（2）第三次小牧市環境基本計画（改定版）に係るアクションプラン（案）について

- ・事務局より資料2について説明
- ・主な質疑、意見は以下のとおり

(山本会長)

エクセルファイル送っていただいたが、どういう形で、市民の皆さんに開示する予定か。開示はするのか。

(事務局)

公開する予定である。

(山本会長)

これを見ても、みんな何を思うか。文章も説明もなく、これだけ提示されて、それでいいのか。

(事務局)

新たな第三次小牧市環境基本計画の改定版の進捗管理の指標となる。そしてこのアクションプランはホームページで出させていただいて、その他の数値等は他の報告書でも記載があるため関係ページ等リンクを貼る形で掲載したいと思っている。

(山本会長)

これを見たら市民は何言ってるか分かるだろうか。私もエクセルシートも見ただけで、これは一体何を言おうとしているのか分からなかった。

(事務局)

進捗管理をするためのアクションプランであるという説明は記載させていただこうと思っている。

(石川委員)

目標値が44,411人ですごく細かい数字であり、44,000ではだめなのか。あと17.9%について18%ではないのか、このように思ってしまう。根拠があってこの細かい数字にしたのか教えていただきたい。

(事務局)

令和5年度、6年度と2か年をかけ、環境審議会の委員の皆さんにご審議いただいた第三次小牧市環境基本計画（改定版）で定めた数値であり、新たにここで設定したものではない。改定版を作成の際に審議会でご審議いただいております、またその過程についても市民の皆さんに開示し、パブリックコメントを経て市民の皆様にご了承いただいているため、なぜこの数値であるかはご理解いただければと思う。

当市には分野別含め様々な行政計画があり、今回の第三次小牧市環境基本計画（改

定版)を策定するにあたり、他の行政計画と目指す方向など整合性を図ったうえで策定した。よって、進捗管理に関して方向性を示してはいるが、具体的な細かな事業まで計画書には記載がされていないので、事業の内容を市民の方に知っていただく形で、アクションプランに事業内容を記載する。

実際にベクトルとしてはこちらを目指す、ではその手法をどうやるのかといったところが、このアクションプランを見ていただければどのような方法で実施していくということが分かるようになっている。

ただその実績を見て、思ったよりもそのベクトル、目標値に向かっていないことが分かれば、やり方や手法、工夫を皆様からアドバイスいただきながら改善を図っていく。実際のその数値、進み具合をよりわかりやすく示すためにエクセルシートとさせていただくことを考えている。

(山本会長)

やはりこのシートだけだと、なかなかとっつきにくいのではないかな。一応ホームページに上げました、これでおしまいですのような、なんかそっけないような感じがしてしまう気がするがどうか。

(事務局)

近年、国及び地方公共団体はオープンデータに取り組むことが推奨されており、PDFで出してしまうと、データとしては扱いにくいということが言われている。できる限りエクセルやワードという形でオープンデータにして研究者の方たちが使えるように開示していく方向性である。自分たちが使う研究材料として数値などすぐに活用しやすい、そういった点からの配慮、また、DXの推進という観点からも、PDFの紙冊子で報告というよりはデータとして開示をしていくという形に市としては進めていきたいため、今回こういう形でご提案させていただいた。

(会長)

せっかくホームページであれば、ただエクセルファイルだけではなく、やはり何らかの説明文等があった方がもう少し丁寧かなという気がしたというのは私の意見としてあり、他の皆さんの方からご意見を聞きたい。

(吉本委員)

アクションプランということで、目標年次が2030年、5年後に目標設定している。要は基本となる、基本条件の例えば人口減少であるとか、昨今、小牧市で議題になっている小学校の再編、それから企業立地や事業所は減少傾向となり、人口の数としては減少傾向にある。

先ほど他の委員の方からご意見があったが、様々な経済的な要因、生活の基本となるごみの量について、人口が減れば、普通、ごみが減るという様々の条件がベースにあるが、それをいかにここの中に落とし込むかというのは非常に難しいというふうに

見させていただいた。そういったところも踏まえて計画されていると思うので、今後そういったものが、どういった影響で顕在化してくるのか、私も見守りたいなと思っておりますので、その辺もお願いしたい。

(事務局)

昨年度改定版を策定するにあたり、人口減少は右肩下がり、今後市の財政面に関しても潤沢にあるわけではない。今まで数値目標として「何人」としていたところが今後母数が減っていく中で対象人口に対する割合にし、今回指標の見せ方を変えたりしている。

数ではなく、割合値を上げていくというようにところにその指標転換をしている部分もいくつかある。人口が減少していく中でよりよい小牧市をめざしていくといった設定をしている。

(馬場委員)

アクションプランの一番下、「V 人づくり・環境基盤の整備」の欄で「生涯学習活動に取り組んでいる市民の割合」で、担当課が文化・スポーツ課になっている。第三次小牧市環境基本計画（改定版）の86ページにある達成目標の説明として85ページに環境問題、環境保全活動、環境教育という環境を含む言葉がたくさんあるが、生涯学習活動だと非常に幅広いが、どのように環境とリンクさせて達成目標に到達させていくのかを知りたい。

(事務局)

この生涯学習活動に取り組む市民の割合について、環境面における環境学習はもちろん大事だが、ここに出てくる生涯学習という部分においては、そのままここに反映されるわけではないと考えている。

小中学生も含め、様々な環境学習を行う中で、こういった生涯学習に取り組まれる方にも反映されていくという見込みもあるのかなと思っている。

本市の最上位計画である「まちづくり推進計画」の戦略2で、“健康・生きがいくくり”と“支え合いの地域づくり”の循環により、自分らしくいきいきと安心して暮らすことができる「活力ある高齢社会（小牧モデル）」を構築の中で重点事業2-2「生涯学習を通じた生きがいくくりと地域を支える人材育成」と掲げており、生涯学習講座の受講者数を指標としてもっている。市の最上位計画である「まちづくり推進計画」は小牧市環境基本計画の上位計画であり、地域人材に環境の視点も入ってくる。指標としては、生涯学習活動という大きいカテゴリーにはなってしまうが、地域を支える人材の点で、環境問題は切っても切り離せない。そういった視点を含めた講座を開催していく予定である。

(馬場委員)

生涯学習の中には趣味の講座も多数あり、環境とどう結び付くのか疑問だったが、

人づくりの観点であれば納得いく。

3 その他

(1) 小牧市環境基本条例の改正について

- ・事務局より資料3について説明
- ・質疑、主な意見は以下のとおり

(山本会長)

市制 70 周年の式典でのアンケートは結構回収率は高かったのか。

(事務局)

式典後に、市の公式 LINE を使って実施したアンケートである。

(山本会長)

出席者はどれぐらいか。300 は多い方なのか。

(事務局)

出席者の人数はこの場ですぐわからないが、式典に参加された方へのアンケートではなく、式典終了後に市の LINE に登録されている方が回答できるアンケートである。

(山本会長)

そうすると 300 は少ないのでは。

(事務局)

公式 LINE で様々なアンケートを実施しているが、300 件を超え回答数はよいほうである。皆さんが取り組みやすいように選択式にしたり、環境に関するアンケートということで皆さんの関心が高かったのではと事務局は分析している。

回答したら何かもらえるということはない中で、配信して初日で 200 件の回答があったため、環境について意識が高いなと事務局としては捉えている。

以上